

事例27

< 事例概要 >

迷入

- ① 90 歳代、咽頭癌に対する放射線治療後。誤嚥性肺炎または化学肺炎疑い、認知症の患者。
- ② 栄養管理のため、中心静脈ポート造設予定。
- ③ BMI 16.9 kg/m²。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 左内頸静脈に透視とリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ガイドワイヤー挿入時に抵抗はあったが横隔膜を越えて下大静脈まで挿入しカテーテルを挿入。ポートを接続しスムーズな逆流を認めたため閉創。X線でカテーテル位置異常なし。翌日、輸液ポンプで高カロリー輸液を開始。輸液投与翌日、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）80 %台、血圧低下し、発汗著明。X線で右大量胸水を認め、輸液中止。意識レベルが低下し努力様呼吸となり胸腔穿刺を施行。胸水約500 mℓを排液し、その成分から輸液の胸腔内漏出が疑われた。輸液開始から2 日後に死亡。
- ⑤ 死因は、右胸腔内への輸液の大量漏出による呼吸不全。下大静脈内に留置されたカテーテルが血管外に逸脱した可能性。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。